

小規模校の取組等について（第 2 回学区審議会資料）

【小規模校プロジェクトについて】

市内小規模校 5 校（柳橋小・谷田部南小・真瀬小・前野小・要小）を対象とし、児童同士の交流や、教職員の教育実践の共有等を行うことで、学校の活性化を図ることを目的として実施しています。

小規模校は、校内での児童交流の幅が限られるため、他校との交流を通して学びを深める機会としています。また、クラス全体での交流に留まらず、ペアやグループ単位での交流も積極的にいき、対話的な学びを進めています。

教職員間では、異学年での学びや地域の方・外部人材を活用した学びなど、各校での工夫した教育実践を共有することで、教育の幅を広げられるようにしています。

【イエナプラン教育※1の理念を取り入れた教育活動について】

公立学校の仕組みに合わせて、イエナプランの理念を取り入れた教育活動を展開することで、自律的な学習者の育成、コミュニケーション力・協働力・表現力の向上、児童による自治的な学校の実現を目指しています。令和 4 年度より谷田部南小で先行研究を始め、令和 5 年度から小規模校プロジェクトに生かしています。

また、STEAM 教育※2を取り入れることで、子供たちの自発性、創造性、問題解決能力等の育成を目指しています。現在、本市の科学技術戦略課にて実施する「つくば STEAM コンパス事業」を活用し、谷田部南小・前野小にて研究者や専門家の支援を受けながら探究学習を進めています。

※1 イエナプラン教育

一人ひとりを尊重しながら自律と共生を学ぶことを重視したドイツで生まれた教育方法。異学年の子供たちでグループを作り学校生活を送ることで、教え合い、助け合いを促すとともに、個々の違いへの尊重心を育むことをねらいとしている。車座になって様々なことを話し合う対話をはじめ、子供たちが協働で探究する学習過程の工夫、各自が学習計画を立て自らの学びを進めること等が特徴。

※2 STEAM 教育

Science（科学）+Technology（技術）+Engineering（工学）+Arts（芸術・教養）+Mathematics（数学）の頭文字を取った言葉。現在、AI（人工知能）が劇的に仕事や生活のあり方を変え、人が求められる将来の仕事は、単純作業から独創的で創造性の高い生産性が求められる仕事へと変容していることから、時代のニーズに対応できる資質・能力を育成する教育。

【複式学級での授業について】

連続する 2 学年の人数が 16 人以下（1 年生を含む場合は 8 人以下）となった場合、2 つの学年で複式学級とし、一人の担任が 2 学年を担当します。（文科省：学級編成基準）

複式学級になった場合には、県が配置する県費加配教員の申請や、市費加配教員の配置を検討し、複式学級に 2 名の教員の配置を検討します。その際には、一人で学年を指導する場面と 2 学年一緒に指導する場面に分け、より効果的な指導になるよう柔軟に対応していきたいと考えています。また、本市としては、小規模特認校にすることで児童数が増加することを期待しており、これにより一定の人数確保に努めたいと考えています。